

# ちずであそぶ

2013.12.21 | 土 | - 2014.1.19 | 日 |  
休館日 = 12.29, 30, 31, 1.1, 1.14

## ●みんなであそぶプログラム

随時参加受付(10:00~16:00)  
大人から子どもまでみんなであそぶプログラムです。  
◎地図分解…  
いろいろな地図をバラバラにして全く新しいものにします。  
◎他にも地図をテーマにした色々なあそびが登場します。

## ●あつまるあそぶプログラム

土日祝(14:00~14:30, 15:00~15:30)  
◎ハリチズ…館内に地図が広がっていきます。

## ●たべるあそぶプログラム

日曜日(11:00~12:00, 14:00~15:00)  
◎さがすーぶ…食材を集める旅に出てスープをつくります。

## ●特別プログラム

1月5日(日)  
「地図」をテーマに1日限りのプログラムを行います。  
どんなプログラムになるか楽しみに!

## 大学連携プログラム

名古屋芸術大学と福山女学園大学と連携して  
学生によるあそびのプログラムを実施します。

名古屋芸術大学のプログラム: 12.15(日)、22(日)  
福山女学園大学のプログラム: 会期中自由に参加可能です。

連携:  
名古屋芸術大学美術学部美術文化コース「アートワークショップ研究」と  
アートクリエイターコース「美術文化演習」  
福山女学園大学文化情報学部メディア情報学科「デジタル画像処理」

◎詳しくは、館内の当日案内をご覧ください。プログラムは予告なく変更することがあります。

## 募集と お知らせ



ACC

## 移動児童館・ゆめたま号 12月~3月の開催地決定

児童総合センターの遊びを「ゆめたま号」  
に乗せて児童館へ遊び、現地のスタッフも  
加わって地域の子どもと大人と一緒に  
遊ぶプログラムです。あそびをとおして、  
たくさんのお出迎えを楽しみにしています。

【開催地】  
12/25(水) 愛西市 / 愛西児童老人ふれあい館  
1/18(土) 日進市 / 西部福祉会館  
1/28(火) みよし市 / 新屋児童館  
2/6(木) 東郷町 / 中部児童館  
2/13(木) 豊明市 / 大宮児童館  
2/22(土) 高浜市 / 東海児童センター  
3/8(土) 北名古屋 / 熊之庄児童館  
※参加につきましては、各施設へお問い合わせください。

## ACCメンバー募集

子どもはあそびで育つ! あいちこどもクリエイティブクラブ  
(ACC) はいつもとはちょっと違ったあそびをとおして、創造  
性とコミュニケーションを深めていくクラブです。

第7回「あそびてついで隊」/日時:平成25年12月8日(日)  
第8回「たべる・あそぶ」/日時:平成26年1月25日(土)  
第9回「あそび実験室」/日時:平成26年2月15日(土)、16日(日)  
(両日参加)

対象:小学生から中学生まで(高校生はボランティアとして参加できます)  
定員:各回15名程度  
※各回の詳細は随時HPまたは館内チラシにてご案内します。

## 【メンバー登録方法】

※各回1~2ヶ月前よりHPにて参加受付の開始をご案内します。  
メンバー登録いただく、メールで随時ご案内します。  
電話 0561-63-1110、メール accc@acc-aichi.org にて、  
氏名(ふりがな)・性別・学年・住所・電話番号(できれば携帯電話)・  
メールアドレス(携帯不可)をお知らせください。

## 愛知県児童総合センター



〒480-1342  
愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1  
TEL 0561-63-1110  
E-mail info@acc-aichi.org  
http://www.acc-aichi.org/

開館時間 = 9:00 - 17:00  
入場料 = 中学生以下無料、その他300円

12月の休館日 = 2, 9, 16, 29, 30, 31日  
1月の休館日 = 1, 14, 20, 27日  
2月の休館日 = 3, 10, 17, 24日

公共交通 地下鉄東山線「藤が丘」、愛知環状鉄道「八草」から  
機関で… リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車  
車で… 東名高速・日進JCT経由名古屋瀬戸道路長久手ICから  
足助方面すぐ(愛・地球博記念公園 北駐車場利用)



# ちずであそぶ

2013.12.21 | 土 | - 2014.1.19 | 日 | 愛知県児童総合センター(愛・地球博記念公園内)

開館時間 = 9:00 - 17:00 休館日 = 12.29, 30, 31, 1.1, 1.14 入場料 = 中学生以下無料、その他300円  
主催 = 愛知県児童総合センター(公益財団法人愛知公園協会)

また、自分の気持ちや誰かとの関係なども地図にできるかもしれません。  
生まれてから今まで、今からその先の未来へ、自分がしてきたことやこれからすること、  
自分の周りを取り巻く様々な人たち、色々なことを考えたり感じたりして自分の世界を思い描くとき、  
その様子もまた色々な自分を指し示す地図になります。  
地図をきっかけにまわりを改めて見渡してみると、様々なことが地図としてみえてきます。  
愛知県児童総合センター全体を使って、従来の地図だけにこだわらない、  
色々な形の地図のあそびを考えます。

道に迷ったり、まだ知らない場所に行ったりするとき、  
わたしたちは地図をみます。  
紙や看板、最近ではスマホやカーナビなど、いろいろな媒体の地図をみて  
自分がある場所、行きたい場所、行った場所を知ることができます。  
そのように見慣れた地図とは少し違う地図もあります。  
風、音、温度など、目に見えないものの地図や、  
あるいは昔々、まだ人が世界をまわれなかった時代、想像でつくられた世界地図のように、  
知らない場所や未知の世界の地図もあります。

子どもとおとな、ドキドキ発見!

# ACC

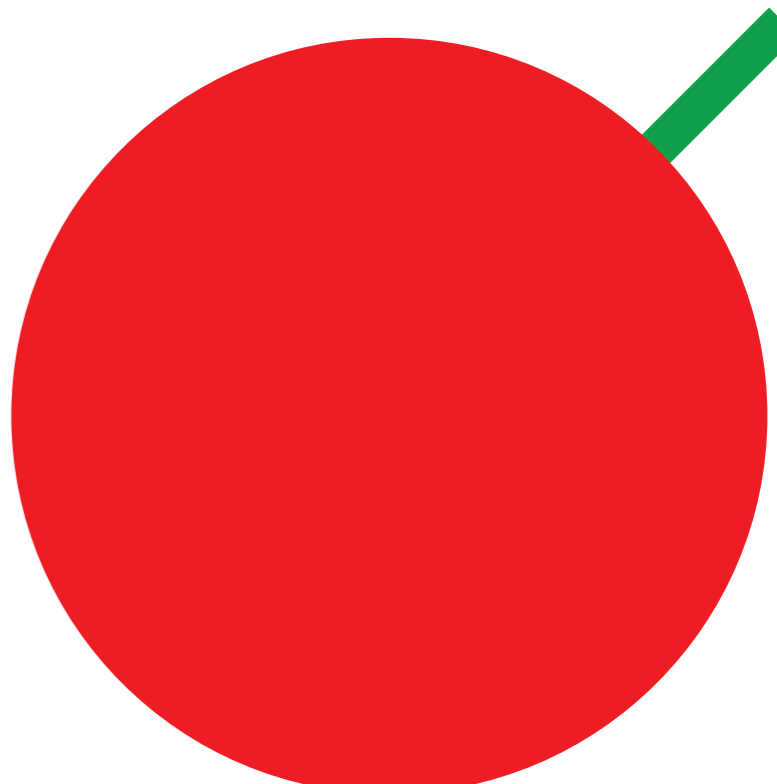
Aichi Children's Center

# レター

News Letter vol.

2013-2014 冬 14

冬季特別企画  
ちずであそぶ  
あのねっとクラブ  
はんたいのはんたいのはんたい  
ACCのおもしろいを発見する  
愛知県陶磁美術館とのプログラム  
子育てのおはなし 第14話  
募集とお知らせ





# あのねっとクラブ

ウゴイテあそぶ

大人も一緒に思いきりカラダを動かします。

あのねっとクラブは、2歳半から3歳の子どもと保護者を対象にしたあそびのクラブです。わくわくするような感覚あそびを中心に、親子で楽しく遊ぶ5回連続の講座です。

まだまだ集団で遊べる年齢の子たちではありません。苦手なこと、できないことも認めてあげて、親はそれぞれの子どもペースに寄り添いスタッフは参加者の気持ちに寄り添いながら、「大人が楽しいと子どもはうれしい」を合言葉に、子どもに遊びを“させる”のではなく、親も“一緒に”思いきり身体を動かして、子どもとの時間を楽しみます。

お母さんたちは、毎回プログラムの後半に行う「ママのコミュニケーションタイム」で自分のことや子どものことを話し、他のお母さんたちの話を聞きながら、子どもとのくらしを楽しみきっかけを見つけたりします。また、全身を使ってダイナミックに遊んだり、子どもとお父さんがプログラムを行っている間「親」や「妻」としてではない「自分」で過ごすことにより、改めて子どもとの関わり方を考えたりと、いろいろな角度から自分自身を見つめなおす時間を過ごせます。

回を重ねるごとに、肩の力が抜けて柔らかくなっていくお母さんたちの表情、子どもたちの元気なあいさつの声。全5回をとおして、親にとっては子どもの新しい姿を発見すること、また子どもと向き合う中で自分自身の発見や、他の親との交流を深めることができ、子どもにとっては、人や場に親しみ思いきり遊ぶ体験の場となります。

今年度実施したあのねっとクラブでは、最初、なかなかみんなと同じことが出来なくて隅で見ていただけだった子が、だんだん積極的にあそびに参加するようになりました。お父さんは、集団の中にいる我が子を初めて見て改めてその成長を感じ、お母さんは子どもが参加しない時に戸惑うのではなく、自分からあそびに参加して「一緒にやろう」と声をかけるようになりました。また、恥ずかしくて返事もできず、常にお母さんにくっついていた子が、最終日には大きな声であいさつをして自分からスタッフに話しかけたり、お母さんと離れても他の子と遊ぶようになっていました。

同じ場所で同じ人たちと共有する時間。5回という短くも長い連続した活動だからこそ、参加者はだんだんとリラックスし、子どもはお母さんを見たことのない表情をみせてくれます。

○来年度の開催時期・募集開始時期については、HP・あのねっとメール等でお知らせします。



ヘンシン!であそぶ

ペイントをしたり、布をまどったりしてヘンシンします。



パパのクッキングタイム + ママのジブンジカン

お父さんが主役の日、お母さんは心がホッとできるジカンです。



サワッテあそぶ

汚れることを気にせずにベタベタ、ぬるぬるで遊びます。



ママのみんなジカン

子どものこと、自分のことをみんなで話します。



身の回りのあちこちでみつかる色々な「はんたい」。上・下、まえ・うしろ、光・影・・・。わたしたちの世界になくなくてはならない「はんたい同士」をたくさんのおそびにした、センター初の挑戦です。



「はんたいのはんたいのはんたい」は愛知県児童総合センター「夏季特別企画」として実施しました。(2013年7月20日～2013年9月1日)

## 子ども運営会議

# ACCのおもしろいを発見する

稲山女学園大学の宮下十有先生と、カメラのアプリケーションや3Dカメラをつかって、よく知っているつもりのおもしろい愛知県児童総合センター（ACC）を見つめなおして、改めて「おもしろい」ところを探していきました。



はんたいサイコロ

「はんたいサイコロ」を鏡の上で転がして、あそびのカードを選びます。



まえ?うしろ?

前に浮き出て見える色と、後ろに下がって見える色を探します。



コトバトル

ことばをたくさん集めて、表・裏のはんたいで遊ぶ、ちょっと変わったゲームです。



うらメニュー

いつものメニューにはない、奇抜なアイデアのメニューを考えます。あつい・つめたい、からい・あまいなどのはんたい同士も登場します。



描くこと消すこと みえない作品をつくる

家族のかたちをなぞって描いてすぐに消します。QRコードを使ってデジタルの世界で再び見ることが出来ます。(KTKRさんのおそび)



ネガテレビ

写真のネガのように色と左右が反転して映るテレビです。



さかさま世界

天井に登場した上下さかさまの世界を、鏡を使って探検します。



手のかたち

土のねん土で自分の手を型取ります。

## 「ACCのおもしろいを発見する」を体験する

文：稲山女学園大学文化情報学部メディア情報学科 講師 宮下十有さん

総勢12人で「ACCのおもしろいを発見する」あそびを行いました。あそびの道具はタブレット端末と3Dカメラのみです。タブレット端末のカメラアプリ「フォトシンセ」は、自分たちの身の回りを上下左右に360度パノラマ撮影できる機能を有します。タブレットは小型でありながら、子どもが見ているものをそのままに画面に捉えることが出来ます。初めてのカメラの機能にビックリしながら、グループごとに自分たちの「お気に入りの場所」「撮影したいと思う場所」「おもしろい場所」で自分を中心にぐるりと撮影。子どもたちの視線で、ACCのおもしろいをとらえました(写真1,2)。「私の周りのぐるり写真」を撮影後、大きな画面で提示して、おもしろい写真、おもしろい場所をみんなと共有しました(写真3)。

もう一つのカメラは「3Dカメラ」です。3D画像ならではの奥行き、手前に飛び出る感覚を体感し(写真4)、再度ACCの「ここがおもしろいポイント」を撮影(写真5)。みんなでおもしろい場所を発表しました(写真6)。撮影する楽しさはもちろん、みんなと「おもしろい」を共有して、ACCのおもしろさ、カメラの面白さも見つけました。

子どもたちの写真から、子どもたちの視線や、視線よりも下にあるものをしっかりとらえていることがわかりました。360度パノラマ写真では、床下スペースなど遊ぶ時の好きな場所、おもしろい場所の撮影が目立ちました。また、3Dカメラでは、チャレンジタワーから見下ろす景色、外の大きな木、ACCの建築構造物など、カメラの機能を活かした「大きな迫力のあるもの」を撮影していました。

子どもたちの「おもしろい」は、ACCであそんだ体験から「おもしろい」をつかまえ、子どもも大人も「発見する」「体験する」おもしろさを共有できました。

# 愛知県陶磁美術館とのプログラム

愛知県陶磁美術館と愛知県児童総合センターの共同企画として、「陶の魅力再発見事業Ⅰ・Ⅱ」を実施しました。「陶の魅力再発見事業」は、やきものの魅力や愛知県陶磁美術館のおもしろさを新たな視点で再発見するものです。今回の活動は来年の愛知県陶磁美術館での展覧会につながっていきます。

## あそびと「陶」と美術館 文：愛知県陶磁美術館 大長智広さん

愛知県陶磁美術館は、今年と来年の2カ年計画で「陶の魅力再発見事業」を行います。私たちは大地の上に生きています。人は自然をよく観察し、土などの素材を見つけることで、これまでに風土に根ざしたいろいろなやきものを生み出してきました。そして、やきものは、毎日使う食器からもわかるように、私たちの生活に深く根つき、文化をつくる原動力にもなっています。この事業は、ワークショップやあそび、展覧会を通じて、「陶」にまつわる魅力を様々な角度からあらためて発見してみようというものです。

今年は、当館にとって「あそび」の先輩である愛知県児童総合センターと一緒に、メディアアーティスト集団のNODEさんと『デジタル絵付け』(2013.6.1美術館、6.16センターにて実施)を、アーティストの小栗沙弥子さんと『愛知県陶磁美術館にちよっかいをかけてみる』(2013.8.16、17美術館にて実施)を開催しました。

『デジタル絵付け』は、当館としては初めての試みとなるメディアアートによるワークショップです。ワークショップでは、参加者が描いた模様をアニメーション技術で繋ぎ、その模様を白磁の壺に投影することで、真っ白な壺を装飾性豊かな壺に変身させました。『ちよっかい』では、参加者の身の回りがあるいらぬものと、当館を散策して発見した「いらぬ?」ものを使って、当館のロビーを飾り付けました。どちらのワークショップも、その場その場で参加者同士の会話や発見が繋がり、「陶」ややきものの専門館である愛知県陶磁美術館に対する興味が開かれていく場になったように思います。

35周年を迎えた当館は6月1日に愛知県陶磁美術館へと名称を変えました。名称を変えて再出発するにあたり、これまでのような一方通行の事業ではなく、あらゆる人たちが集い、「やきもの」の魅力をもとに創造の輪が次々に広がっていく館のあり方を目指したいと思っています。今回の成果をもとに、来年は、愛知の風土と美術を結びつけた企画展「愛知ノート」を開催します。ぜひご期待ください。

## 『デジタル絵付け』



## 『愛知県陶磁美術館にちよっかいをかけてみる』



愛知県陶磁美術館平成26年度企画展 「愛知ノートー土・陶・風土・記憶」 問合せ：〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町234 愛知県陶磁美術館 会期：2015年1月10日(土)～3月15日(日) 電話 0561-84-7474 FAX 0561-84-4932

# 子育てのおはなし

臨床心理士 後藤 かをり

## 第14話

# 「かんしゃく」

お母さん方の困られることのひとつに「かんしゃく」があります。それだけでなく次から次に現れるやらなければならぬ家事や、疲れを知らない子どもたちとの付き合いでいい加減疲れているのに、相手の気持ちがあつかまなかったり、こちらの気持ちが伝わらなかつたりすることほど疲れることはありません。

多くの場合「かんしゃく」は、思い通りにならないことへのどうしようもない気持ちの表出です。だから、言葉がもう少し自由に操れたら、またもう少し未来のことへの見通しを持てるようになれば、おさまっていくことが多いのですが、みんなが見ているスーパーの中だつたりすると恥ずかしい気持ちもわいてくるし、家でいつまでも泣き止まない時など、虐待と思われなにかしら…と心配になります。よその子はそんなでもないようにも思えます。

確かに「かんしゃく」は、強い子、弱い子がいるようです。気持ちの表現の強い子や物事の感じ方の鋭い

子が、一生懸命「わかってほしい」と表現しているのでしょうか。経験するお母さんは多いです。

もう、なだめても抱っこしてもどうしようもない時は、危なくないようにして、そっとしておくのがよいようです。大切なことは、自分の要求はいつも通るわけではないこと、自分で気持ちを収めていくことを学んでくれること、また、お母さんやお父さんが自分の気持ちをわかってほしいと感ずることです。

ですから、ぜひ、あれこれ子どもの気持ちを想像して、あの手この手を試してください。この試行錯誤が、親と子のきずなを深めていくように思います。そして、静まったら、「泣き止んでえらかつたね」と褒めてあげてください。

でも、あんまり強すぎてとか、いつもいつもで困り果てるようなときは、ぜひ保健所や支援センターなどに相談してみてくださいね。